

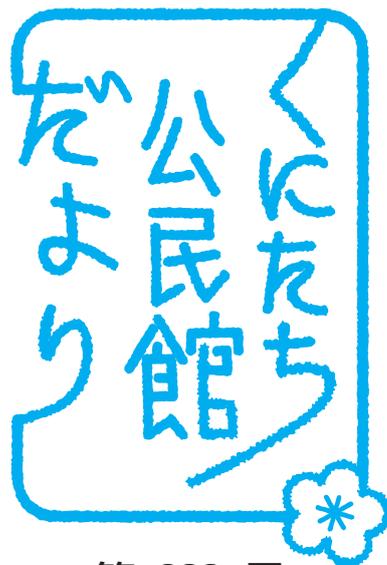
よりよい公民館事業をつくるための共同的な「評価」

～答申「国立市公民館の事業評価のあり方について」を読んで～

越村 康英（千葉大学他非常勤講師）

公民館では、公民館事業などに関して審議する公民館運営審議会（公運審）が毎月活動しています。この度、2016年10月に任期が終了した第30期の公運審から、答申「国立市公民館の事業評価のあり方について」が館長に提出されました。

そこで今回は、社会教育や公民館の評価に関する研究の業績がある研究者に、本答申の意義と今後の活かし方について、寄稿いただきました。



第 683 号

2017年 1月5日

(平成29年)

「公民館における評価」の現状

公民館の設置及び運営に関する基準（第10条）、社会教育法（第32条・第32条の2）により、公民館には、「事業」「運営の状況」について評価を行い、その結果を公表することが求められています。努力義務ではありますが、こうした規定が新設されたことによって、ここ約10年の間に、評価の取り組みはずいぶん広がってきました。しかし一方で、その状況は混沌としています。「公民館における評価」とは、「誰に向けた、何のための、どのような評価なのか」が構造的に整理されず、様々な取り組みが行われています。行政評価（事務事業評価）として、公民館職員による自己評価として、公民館運営審議会による点検作業として、学習活動のふり返りとして……。これらの取り組みが、公

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

民館活動の充実・発展をめざして有機的に結び付くことなく、バラバラに行われているのが実態ではないでしょうか。

市民参加による事業評価の仕組み

こうした状況のなかで、この「答申」は出されました。その内容は示唆的で、まさに事業評価の羅針盤になりうるものだと思います。

「答申」では、国立市公民館における事業評価のあり方（現状・課題、必要性など）が、①公民館職員、②市民・公民館利用者、③行政管理者（＝公民館事業の予算や体制に対して重要な影響を有する多様な主体）という三者の立場・視点から整理されています。

そして、最も注目すべきは、これらの三者が一堂に会し、共同で評価する仕組みとして、「公民館研活動をふりかえる会」（公民館研究集会）の開催が提案されている

迎春

います。また、その成果（評価結果）を共有していくために、公民館運営審議会が中心となって、市民による「アニエアルレポート」（年次報告書）を作成・公表していくことも提案されています。

共同の学習プロセスとしての「評価」

事業評価をいわゆる「評価表」の作成と実施に留めるべきではありません。「公民館活動をふりかえる会」の構想に表れているように、評価を、よりよい公民館事業をつくるための共同的な学習プロセスとしてとらえ返してみることによって、ダイナミックで実効性のある事業評価の実践を創り出すことができると考えます。

ここに提案されているような事業評価の仕組みを具体化できれば、公民館事業はさらに充実し、公民館はもっと輝くはず！ 「答申」を拜読し、そう直感しています。

【越村さんのプロフィール】大田区・北区社会教育指導員を経て、現在、千葉大学や日本体育大学等の非常勤講師。公民館評価に関する論文に、「地域公民館研究会がもつ評価実践としての価値」（日本社会教育学会編『社会教育における評価』東洋館出版社）、「公民館のエンパワーメントと評価」（長澤成次編著『公民館で学ぶⅣ』国土社）がある。

〈第15期公民館だより編集研究委員会のまとめ〉

未来への便り

「公民館だより編集研究委員会」は月1回の定例会で、公民館の担当職員も交え、公民館だよりについての感想や意見交換、「サークル訪問」欄の取材・執筆を行っています。委員は公民館運営審議会委員3名、一般市民委員5名の計8名です。「公民館だより」は単なる「お知らせ」ではなく、市民の学びを支える「読み物」です。

「公民館だより編集研究委員会」は何をするの？

8名の市民ボランティアと職員が顔を合わせ、配布されたばかりの「公民館だより」を手にして2時間にぎやかに話し合っています。名称は堅苦しいのですが、委員は毎回「楽しかった!」「発見があった!」という思いを共有することができました。一緒に読むからこそできる体験です。

もう一つの大事な柱である「サークル訪問」は、市民の自主活動を伝えたいとの思いで歴代の委員が300サークル以上を訪ねて書いてきました。

15期の任期終了にあたり、座談会を開きました。この2年間の活動をふり返って、委員8名が大いに語り合ったことを、まとめとしてご報告します。

「生きる意欲は」

ここにいったのか

戦後という時代はエネルギーに満ち溢れていました。

岩波映画『町の政治』(1957年)には、国立町(当時)の公民館で、町の予算がどのように使われているか勉強していた女性たちの活動が描かれています。当時の人々は、そこに公民館があり、

家事や仕事の後、そこで勉強することを待ち望んでいました。でも今と昔では社会状況も価値観も違ってきています。戦後のわき上がるような「生きる意欲」は今はないように思うけれど、一体どこにいったのでしょうか……。

「いいえいえ!」ここにはありません!

自分自身のことを考え、自分の目で見ると、そうしないと、周りにふり回されてしまう……。生きることを真剣に考える文化をつくっていかねばと思っている。

国立にはエネルギーをもった人がたくさんいるように見えるけれど、なぜだろう。国立の公民館は市民の手で作ってきたから?

「僕は「小さなまち国立の公民館でルネサンスの華がひらいてい



「今月号をお読みになって、皆さんどうでした?」

る」と思うけどな。

「公民館は、現代の問題に対して学ぶ場であり、いつでも学び直しができる場。しかも無料で!」

「ここに来ると人があたたかいし、そういう人間関係があるからこそ、自分の中を深く耕す経験ができるよね。「公民館だより」を見ると、さまざまな講座の案内が載っていて、自分の現実、それぞれの立場の現実を知るときつけになります。」

「まだ自分の言葉が熟していないときに、「公民館だより」の講座名を見て、まさにこれが学びたかったんだとわかることがある。それでは自発性に欠ける?」

「市民の学習意欲を触発するのは公民館の働きよね。」

「世代間の橋渡し役を

公民館がしたらいいよ」

公民館には年配の方が多いイメージがあるかもしれませんが、でも、本当は親子でも来られる場所です。大人が学習している間に子どもをあずかる保育室もあるし、親子向けの講座もあります。今年度実施した「子育て世代の防災講座」は多くの方が参加したそうです。青年室には若者がつどっているけれど、その他の講座には、若い世代の参加が多いとは言えません。

「公民館だより」はホームページで見るとはできるけれど、各号の目次も載っていないから若者はわざわざ見ないですよ。SNS (TwitterやFacebook) を活用するのはどうでしょうか。

「確かに、若者と意見交換がしたいから、彼らにも届く広報媒体もほしいね。「公民館だより」という紙媒体を主に手にする世代と、インターネット、SNSを活用している世代の歩みよりが必要な時なのかもしれません。」

「リアルな場に若い世代に来てもらうためにSNSを活用して、市民のなかの世代間のつながりをもっとうまると良いですね。」

「学び直し」の場

この2年間の大きな出来事といえば、公民館が60周年を迎えたことでした。「公民館だより」でも60人の声というシリーズがありました。公民館に縁のある方々60人に書いていただいた公民館へのメッセージ集です。はじめて知ることも多く、とても良い企画でした。

その中に、こんな文章がありました。「なんらかの理由で大切な学習の機会をもてなかつた人こそ、多様な学びのチャンスを提供するネットワークを、まち全体に

「このサークルの魅力がもつと伝わる文章は……」



「う～ん、あと2行削らないと……」

「広げてほしいと願っています」。多様な学びのネットワークの拠点としての公民館のあり方について考えるきっかけになりました。公民館は、さまざまな理由から学ぶ機会がなかった人々に対して、「学ぶ機会」を提供する場であるべきです。今あまり公民館にきていない世代はどの世代かなと考えてみると、やはり現役世代の方かもしれません。現在の日本社会では、働き方や社会全体が変わらないと、社会教育に参加する時間がないのかもしれない。人口や経済が縮小する社会の中で楽しく生きるにはどうしたらいいのでしょうか。

「自分も仕事のことなどで悩んでいた時、公民館にきてみました。公民館は弱っているとき、困っているときに来られる場だと思います。」「駆け込み寺、セーフティネット。」「私も、日常が忙しい人たちにとって、「公民館」は別世界として大切だと思います。参加した「ピースリーディング」講座は私の人生を変えたと言えます。半年間という長い期間の講座だったことで参加者同士も仲良くなり、今もつながりが続いています。サークルでの学習の機会もあるけれど、市民だけでは開催できない講座なども、公民館主催なら開講できる。市民だけでは限界もある。公民館が呼びかけてくれたから人間関係も広がり、新しい世界が拓けたんだと感じました。

未来へ向かって

先ほども話に出ましたが、若者にもっと公民館にきてもらって、講座の場で一緒に考えたいですね。縮小社会を担っていく人が来てくれないと困る。まさに国立にとつてもリアルな問題ですよ。

「ここは誰でも自由に来られる場で、社会の問題に対して知恵を出し合える場です。市役所のいろいろな部署の人達とも地域の問題を話したいし、全ての世代で議論できる場であってほしい。

「公民館は、市と市民、各世代をつないでいく。公民館が続いていけば、次の世代にも市民の学びが続いていくのではないだろうか。

「公民館だより編集研究委員をやって、「公民館だより」が他市に比べて贅沢なものなのだということを知りました。そして、その現状に満足せず、よりよいものにしてほしいという意図で編集研究委員会があることも知りました。そんな公民館が国立にあります。

「エネルギーをもった人が共に学び合うから、人のつながりをうみ、そこから地域のつながりができてくる。

「編集研究委員会に出席するようになって、他の委員さんからの発言で参加する講座も増えました。

講座の参加者同士、触発されることも多いです。

意見書を提出しました

任期中、「市報」と「公民館だより」が市の事務事業評価委員会に取り上げられました。市民の代表として、「公民館だより」の歴史的意義、現在そして未来にわたる必要性と可能性、魅力と意義をそれぞれの委員が伝えました。評価委員会から情報発信のさらなる工夫をという助言と、公民館だよりが果たす役割を評価するという励ましを得ました。以下この意見書に書いた委員のことばのほんの一部を抜き出します。

「モノクロの地味で頑固なおぼさんのような「公民館だより」。紙面下部にはユネスコ学習権宣言の「学習権とは」が控えている。市報に組み込まれている他市のたよりをみると、単なるお知らせコーナーになってしまっているのではないかと心配に思う。一冊の独立した読み物であってほしい。

「市民の声を60年近く送り続けている「公民館だより」。永い年月をかけて培ってきた国立市独自の市民自治の精神が脈々と流れている。単なる情報媒体ではなく、市民一人ひとりが紙上で意見を交わし、お互い学び合う大切な参考資料である。手にした時そこに生活している人の思いや気持ちがよく分かる。「公民館だより」がなかったら現在の国立の文化は考えられない。

「公民館だより」の基本は公民館を拠点に主体的に学ぼうとする市民の活動とそれをサポートする公民館のはたらきであり、学習の発表や情報の提供である。

「市民力が明暗を分ける地方創生時代にむけ、「公民館だより」の本質的価値である熟議の場としての役割が損なわれることがあってはならない。

第15期公民館だより編集研究委員(任期 2014年12月から2016年11月まで)
三好紀子(委員長)、長田利信(副委員長)、荒井寿恵、井上恵子、隈井裕之、高木裕子、武内法行、龍野瑠子

「委員一同より」皆さん、こんな楽しい編集研究委員会活動にぜひご参加ください。

〈くにたちブッククラブ 言葉のとげ、境界にたつ文学〉

倉橋由美子

『大人のための残酷童話』(新潮文庫)

講師 小^{おだいら}平 麻衣子 (慶應義塾大学・日本近代文学)

とき 1月12日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読みを出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

〈図書室のつどい〉

文字をつくる仕事

—理想の書体を求めて—

お話 鳥^{とり}海 修 (書体設計士)

本や新聞、パソコンや携帯電話などで毎日あたりまえのように目にする文字。その文字は、人の手によって読みやすく、美しく設計されています。

鳥海さんは、「水のような、空気のような」誰もが当たり前前に、安心して読める書体を理想として、100以上の書体の開発に携わってきました。

レタリング(文字のデザイン)実演をまじえて、書体設計士の仕事や、書体という「モノづくり」に取り組む思いについてお話を聞きます。

〈鳥海さんの本〉

『文字を作る仕事』(晶文社)、『モジ もじ 文字』(共著、武蔵野市立吉祥寺美術館)。

とき 2月10日(金)夜7時～9時

ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)

*申し込みは不要です。ご自由においでください。

シネボックス (C-INEVOX 公民館映画会)

『男はつらいよ 純情篇』

1971年 松竹 カラー 89分 ※DVD版

監督 山田洋次 音楽 山本直純

出演 渥美清、倍賞千恵子、若尾文子、森繁久彌、宮本信子、森川信、笠智衆、三崎千恵子、前田吟、太宰久雄、佐藤蛾次郎、松村達雄ほか

公民館映画会年始のお楽しみ、ご存知『男はつらいよ』シリーズ。今回は第6作『純情篇』の登場です。夫と別居中の美貌の人妻に一目惚れしてしまった寅さんの、笑いと涙の大騒動! マドンナは、当時大映の押しも押されぬトップ女優だった若尾文子。また、渥美清が敬愛する名優・森繁久彌がゲスト出演! 新旧2大喜劇スターの競演も話題となりました。初期の『男はつらいよ』シリーズのイキの良さを示す秀作です。



とき 1月22日(日)昼2時～(開場1時)

ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)

*申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈一橋大学連携講座〉

街角にいつも「大学」がある

—くにたち教養マッピング—

くにたちという町のあちこちで、毎日いったいいくつの「講座」や「研究会」や「勉強会」が開かれているか、みなさんはご存じでしょうか? 公民館主催のものだけでも、年間300を超える回数数の講座があります。自主的な小さいグループや、単発のイベントなども含めたら、一橋大学全体の授業の数よりずっとずっと多いかも!

いっどこで誰が何をこつこつと学んでいるか、大学では大学の、町では町の「学問地図」が描けるはず。学府の内と外の「学問地図」を重ね合わせてみたら、もう一枚の「くにたち文教地図」が見えてくるのではないのでしょうか。この講座ではそんな探究をしてみたいと思います。

講師は一橋大学の教員及び大学院生が務めます。

とき 全5回いずれも日曜日、昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室(3月5日は一橋大学の予定)

回	月日	テーマ	講師(所属)
1	1月29日	書を捨てずに街に出よう —学・術・技芸の万華鏡散歩—	武村知子/ 大河内泰樹
2	2月12日	文系の理、理系の文 —文理は分離すべからず—	筒井泉雄
3	2月19日	〈ワークショップ〉 街角の小さな「学府」を集めよう!	おきな大地/ 武村知子 及び学者と たまごたち
4	3月5日	前回の続きのワークショップ	
5	3月12日	ふり返りとまとめ	

定員 30名(なるべく全回参加できる方)

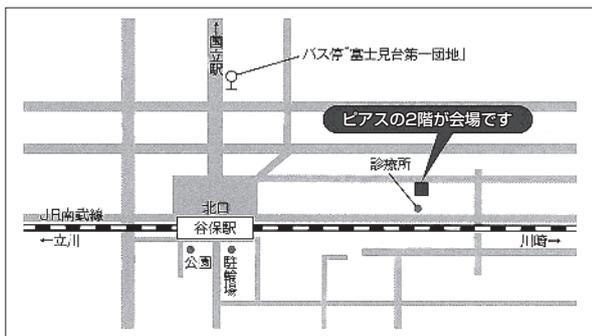
申込先 1月6日(金)朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

〈国立市公民館・NHK学園高等学校共催〉
子ども・若者を支える“つながりワークショップ”

子どもの育ち、若者の自立を支援する地域の活動や団体の取り組みについて学びあい、“つながり”をつくる連続ワークショップです。どなたでもお気軽にご参加ください。以下2名からの活動報告と、小グループで地域資源のマップ作りについて話し合いをします。

- ① 小林 由美子 (多摩棕櫚亭協会理事長)
「精神障害者の地域生活を支える～棕櫚亭の30年～」
- ② 小暮 幸子
(NHK学園高等学校スクールソーシャルワーカー)
「高校生の学習と生活に寄り添う自立支援」

とき 1月19日(木)夜7時～9時
ところ 多摩棕櫚亭協会ピラス2階
(富士見台1-17-4 JR南武線「谷保駅」北口から徒歩2分)
申込先 公民館 ☎ (572) 5141



母と娘のむずかしさ

講師 大美賀 直子

(精神保健福祉士、
産業カウンセラー・All About「ストレス」ガイド)

母と娘の関係には、心理的な距離の近さから生じる難しさがあります。

母が娘に依存してしまう背景にはさまざまな原因がありますが、同性同士であるがゆえに、**共感によってお互いを拘束してしまう**ことがあるのです。その影響から、娘にとって世界の中心は母になり、家族から自立できない大人になったり、機能不全家族のなかで育ち、成人してもそのトラウマを抱えている「アダルト・チルドレン」と呼ばれる大人になることもあります。

摂食障害や非行といった影響までもまねくことがあるこの問題を正しく理解し、じっくり考える機会にします。

- ◆第1回 1月15日(日)「母と娘のむずかしさ」とは
- ◆第2回 1月22日(日)娘の立場からみた「むずかしさ」
- ◆第3回 1月29日(日)母の立場からみた「むずかしさ」

時間 朝10時～12時(毎週日曜日、全3回)
ところ 公民館 3階集会室
定員 20名(年齢・性別不問。申込先着順)
申込先 1月10日(火)朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

〈公民館・『毎日がアルツハイマー』上映実行委員会共同企画〉

「認知症とともに生きる」

ドキュメンタリー映画上映&学習会

2025年の日本は、認知症の人々が700万人になると言われています。公民館では、昨年度からこのテーマについて考える映画会と市民参加の準備会を継続してきました。今回は公民館と市民による実行委員会で以下の通り共同企画しました。

介護体験を聴く・語る会(公民館主催)

現在介護中の方、介護体験をお持ちの方に、お話を伺います。お話の後は、参加者同士でご自身の体験や不安に感じていることなどを話し、交流する時間を設ける予定です。どうぞお気軽にご参加ください。

とき 1月27日(金) 昼1時～4時
お話 明石 秀雄、田野崎 利幸、峯岸 聡美
コーディネーター 田村 文栄、矢崎 薫
ところ 公民館 地下ホール
定員 50名(当日先着順)
*申し込みは不要です。ご自由においでください。

ドキュメンタリー映画上映会(実行委員会主催)

市民実行委員会は認知症介護をテーマにしたドキュメンタリー映画『毎日がアルツハイマー(監督:関口祐加)』(続編同時上映)を企画しました。

関口監督の母は、2009年から認知症を発症します。母と住むことを決意した関口監督はその日常を記録し、母の〈喜怒哀楽〉を通して認知症を描きます。続編『2』は、母の行動を理解するヒントを学ぶ内容です。

とき 1月20日(金) 昼1時～4時(開場12時30分～)
1時～『毎日がアルツハイマー』(2012年/93分)
2時50分～『毎日がアルツハイマー2』
(2014年/51分)

ところ 公民館 地下ホール
定員 85名(要事前予約、下記連絡先まで)
参加費 1,000円(資料代)
*実行委員会連絡先 ☎090(3247)8848(矢崎薫)

「介護で五七五七七」

— 思いや不安を吹き飛ばそう! —

講師 小谷 あゆみ

(フリーアナウンサー、

NHKEテレ「ハートネットTV 介護百人一首」司会)

介護をする方、される方が日々の生活の中で経験する、さまざまなエピソードや思いを短歌にしてみませんか?

31文字に日ごろ感じているつらさ、悲しさ、怒り、不安、笑い、そして優しさを表して、オモイを共有できればと思います。

介護をしている方も、していない方も、カフェに立ち寄るような気持ちで、お気軽にご参加ください。

回	日時	テーマ
1	2月10日(金)	「介護の達人は人生の達人!」 介護短歌ってどんなもの?
2	3月10日(金)	介護短歌 作品紹介

時間はいずれも昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(先着順)*1回のみ参加も可能です。

申込先 1月10日(火)朝9時~

公民館☎(572)5141

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

ボール転がし装置をつくろう!

レールや歯車などをつなげてボールを転がすピタゴラスをみんなで作ります。専用キットを使うので、ハサミなどの工具は使用せずに装置を作ることが出来ます。みんなで面白い装置を作ってみましょう!

講師 高橋 真生

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 1月29日(日)朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール

持ち物 飲み物、動きやすい服装

対象・定員 子ども(4歳以上~小学生)と保護者
15組(先着順)

申込先 1月6日(金)朝9時~

公民館☎(572)5141

*この講座は、さまざまな遊びをとおして子どもとふれあい、他の親子や異年齢の子どもたちとの交流を通して、大人として、保護者としてすべきことは何かを感じ取り、考えていく機会となるよう実施しています。



くにたち野鳥観察

1月から3月にかけて、野鳥観察会(2回)と室内でのスライドをつかった講義(1回)の全3回で実施する連続講座の第1回目です。

随時受け付けていますので、是非3回続けてご参加ください。(1回だけの参加も可)

*講座の詳しい内容は「公民館だより」12月号に掲載しています。

講師 佐伯 元行(国立あおitori保育園 園長)

中島 徹也(くにたち探鳥会)

とき 1月15日(日)朝9時30分~12時頃

ところ 城山周辺(観察会)

*雨天時は講義と振り替えます。

集合・解散 郷土文化館前

持ち物 筆記用具、お持ちの方は野鳥図鑑、双眼鏡等

定員 各回15名(先着順)

申込先 公民館☎(572)5141

来年度、保育を希望するグループは

お知らせください

公民館には公民館保育室があり、公民館で活動する市民グループの中で保護者が乳幼児をあずける必要がある場合、保育を行います。

来年度(2017年4月~)保育を希望するグループ、考えているグループは1月27日(金)までに公民館へお知らせください。

〈公民館の窓〉

文化祭を担当して

「広げよう つなげよう 地域の文化」をテーマに掲げ、10月末から始まった第61回市民文化祭が12月に幕を閉じました。文化祭は市内で活動する団体の皆さんが、日頃の成果を発表する一大イベントです。今年の参加は27団体。4月には文化祭に向けた実行委員会が立ち上がり、準備を進めてきました。今年度から公民館で働き始めた私にとって、最初は団体名や活動内容、皆さんの顔を覚えるところからのスタートでしたが、一緒に準備を進めていくなかで、皆さんの文化祭に対する熱意に驚かされました。

文化祭当日は、どの団体もとてもいきいきと発表し、笑顔でもってなしている姿が印象的でした。様々な展示作品で公民館内が華やかになりました。期間中、たくさんの方に来ていただき、ある団体からは「文化祭を見に来た方が興味を持ち、入会してくれた」というお話を聞きました。まさに今年のテーマのように、文化祭をきっかけに活動の輪、仲間作りの輪が広がっていったことを嬉しく思います。私自身、初めてのことでびっくりでしたが、担当になったことでたくさんの方と関わり、国立市内の文化活動を知ることもでき、多くのことが経験できました。「新しい世界」や「素敵な出会い」が待っている文化祭に、次回もぜひお越しください。(S・K)

ひるば

(8ページにもあります)



セグロセキレイ

撮影 中島徹也さん(西)

水泳クラブ「かろかも」会員募集

今年こそ、水泳で健康づくりを
始めませんか。免疫力アップには
水泳が一番。初心者から上級者ま
でレベル別にコーチの指導を受け
ます。年齢・性別不問。体験可。
日時 毎週火曜日 昼2時～4時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 榎本(575) 5181

国立空手クラブ会員募集中

無料体験実施中
空手道を通じて、心身を鍛えて
精神生活を豊かにし、生きがい
を持ちませんか?オリンピック選手
も夢ではありません。必ず電話を
日時 毎週火・木曜日 昼4時半～
場所 総合体育館 第二体育室
連絡先 枳(748) 4514

水泳同好会会員募集

新年を迎え生涯スポーツとして
水泳を始めませんか。健康水泳の
方から競泳志向の方まで大歓迎!
レベル別に公認コーチが指導しま
す。年齢、性別不問。体験可。
日時 毎週火曜日 夜7時～9時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 石橋(577) 2621

水泳「とびうお」会員募集

女性の皆さん!冬場の運動不足
解消に泳いでみませんか。初級、
中級、上級に分かれ、女性コーチ
の指導で楽しく泳いでいます。会
員は女性のみ。体験可。(無料)
日時 毎週火曜日 正午～昼2時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 野上(574) 9728

—文部科学省委託事業・学びを通じた地方創生コンファレンス—
学び合いが拓く持続可能な社会「東京コンファレンス」
～東京都公民館連絡協議会・運営参加事業～

東京でさまざまな人々の学びを支援し、地域を育んでき
た社会教育・生涯学習関係者、行政職員、ボランティア・
市民活動・NPO関係者、学校・大学関係者等が「オール
東京」で集い、「学習都市・東京」の展望を議論します。

日時 2月5日(日)終日、6日(月)午前中のみ

会場 東京大学・本郷キャンパス

参加費 無料(交流会のみ5,000円)

主催 東京大学大学院教育学研究科

企画・運営 学びを通じた地方創生コンファレンス東京実
行委員会<代表:牧野篤(東京大学教授)、構成団体:
特別区社会教育主事会、東京都社会教育指導員会、東京
23区社会教育ネットワーク、東京都公民館連絡協議会、
たま社会教育ネットワーク>

プログラム(朝10時～夕5時30分まで、交流会夜6時～)

■リレートーク「学習都市・東京への提言」

高綱学院大学学長:合田隆史

ESD活動支援センター:村上千里

日本ボランティアコーディネーター協会:後藤麻理子

■分科会

①オリンピック・パラリンピック、②防災、③子ども・
若者、④少子高齢社会、⑤実践力

■全体会・交流会(2月6日はフィールドワークのみ)

*詳細・参加申込は、公民館にあるチラシをご覧ください。

問合せ先 公民館 ☎(572) 5141

〈社会体育事業〉

「街を・山を歩く」第3回

とき 1月17日(火) <雨天中止>

集合 国立市役所西口広場 朝9時

実施方面 日野市 高幡不動方面

(距離:約9.5キロ 高低差なし)

対象 市内在住、在勤者

チラシ 1月6日(金)から市役所3階生涯学習課、総合体
育館、公民館、北・南市民プラザで配布します。

申込方法 チラシの内容を確認のうえ、(日程、コース、
申込方法等)1月10日(火)から13日(金)の
期間に下記までお申し込みください。

申込・問合せ先 教育委員会 生涯学習課

社会教育・体育担当 ☎(576) 2107(直通)

公民館運営協議会報告

12月13日(火)第2回定例会を
開催。委員15名、館長、職員2名
が出席。傍聴2名。

前回議事録確認

協議事項
委員長より、公民館の職員体制
拡充を目指すべく要望書の提出に
ついて提案があった。具体案の検
討は次回に持ち越すこととなった。

委員研修

副委員長を講師に、三多摩を中
心にした公民館の歴史、その目的
今後の公民館像の模索などを、映
像を交えて学習。公民館及び社会
教育の本質について、質疑応答が
活発に行われた。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会
新旧委員の引き継ぎを行う。12
月号の内容について、「公民館運
営審議会の活動のまとめ」は、わ
かりやすく好評。他、講座参加募
集記事など興味深い内容で好評。
○社会教育委員の会
生涯学習振興・推進計画に係る
答申について、基本施策と個別施
策、項目の整理を行い、執筆分担
を決めた。

○東京都公民館連絡協議会

1月21日(土)の研究大会の詳
細打ち合わせ。各市の答申等につ
いて情報交換を行った。

次回定例会は1月10日(火)夜
7時15分から。傍聴歓迎。(今村)

今月の公民館 (1月、2月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 12日(木) 夜 くにたちブッククラブ
倉橋由美子『大人のための残酷童話』
- 15日(日) 朝~くにたち野鳥観察
- 15日(日) 朝~母と娘のむすかしさ
- 19日(木) 夜 子ども・若者を支える
“つながりワークショップ”
- 20日(金) 昼~「認知症とともに生きる」
ドキュメンタリー映画上映&学習会
シネボックス
- 22日(日) 昼* CINEVOX公民館映画会
『男はつらいよ 純情篇』
- 29日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
- 29日(日) 昼~一橋大学連携講座
街角にいつも「大学」がある
- 2月10日(金) 昼~介護で五七五七七
- 10日(金) 夜* 図書室のつどい
「文字をつくる仕事—理想の書体を求めて—」

ひろば

(7ページにもあります)



無病息災
撮影 和賀一さん(西)

ダンス交流会「鹿鳴会」

原則四曲以内交代でダンス交流を開催しています。楽しく健康増進を目的とした会です。お待ちしております。

日時 第一日曜日 夜6時~8時
場所 福祉会館 4階大ホール
連絡先 野口090(314) 2870

くにたち国際友好会 WING

1月の国際理解講座は「日韓の架け橋となった人達」と題して、韓国仁荷大学教授で現在一橋大学法学研究科客員研究員の李京桂さんに講演していただきます。

日時 1月19日(木)夜6時半
場所 一橋大学 国際交流会館
連絡先 和田090(349) 2110

学習と活動持続のための公民館職員人事を考えるシンポジウム

提言「公民館職員人事のあり方」を国立市と教育委員会に提出しました。提言を読み一緒に話し考えましょう。公民館をまもる会

日時 2月5日(日)昼1時半
場所 公民館(予定)
連絡先 杉原(57) 0124

憲法とわたしたち連続講座No.48

「日本国憲法」に習熟しよう。今年、憲法の改正問題が注目されるでしょう。現段階では憲法の習熟こそ緊急課題です。講師はジャーナリストの西川重則さん。

日時 2月11日(土)昼2時~4時
場所 公民館(予定) 資料代500円
連絡先 実行委(54) 9210

〈サークル訪問304〉

武蔵野リコーダーコンサート

公民館音楽室のドアを開けると、にぎやかな合奏の音で迎えられる。ちょうどメンバー全員での練習の途中であった。曲はモーツァルトの喜遊曲。文字通り明るく弾むような楽曲である。

演奏がひと区切りついたところで、指導の大和田氏の声がとぶ。「ソプラノさん、54小節からちよつと遅かったね。そこだけでも一度」。

次のショパンの曲では、「テノールやバスは94から遅くして。本番ですれたらこわいよ」。

音楽に疎い筆者は、リコーダーにソプラノやテノール、バスがあることも知らなかった。娘が小学生のとき、学校でリコーダーを購入したのは知っていたが、それはソプラノやアルトだそうである。

ここではそれと同種のものに加え、もっと大きいテノール、そして一抱えもある大きなバスまで使用されている。よって合奏も本格的で、高音から低音まで、男女混声コーラスのような効果が出ていると感じた。

「皆が集まってこうして合奏するのは、ハーモニーを楽しむため



ハーモニーを楽しみながら

なんです。個々人では出来ないアンサンブルですから」と、幾人もの人が語ってくれた。曲目はクラシックからポピュラーまで幅広く、総て大和田氏がリコーダー用に編曲した楽譜を使っている由。

訪問時には十一月の多摩地区のリコーダー愛好チームが集結する合同演奏会に向けての特訓中であった。毎年六月にはくにたち音楽祭にも出演しているそうである。

このサークルの発足は36年前、現在メンバーは男女合わせて七名なので、新しい参加者大歓迎とのこと。なお、練習は毎月第1、第3水曜の19時~21時。初心者でもオーケーです、との話であった。

連絡先 矢野(53) 0230
〈文・写真 武内法行〉